

「情報処理学会論文誌：数理モデル化と応用」の編集にあたって

白石 洋 一†

第5号では2001年3月、5月の各研究会の講演と連動した論文10編、および、それ以前の研究会の講演に基づく論文2編(研究会に連動しない論文)からなる採録論文12編を掲載しております。採録論文数/投稿論文数は、研究会の各回ごとに、それぞれ、6編/7編、4編/9編(うち、取り下げ1件)、全体として10編/16編で、採録率は63%です。3月の研究会だけに限ると採録率は86%と比較的高くなっております。また、各回の研究会講演には連動しない論文2件は、著者らの努力により、再々投稿を経て採録となっております。再々投稿を強く勧め、価値が見い出される論文を採録されるまでエンカレッジしていくことは、本論文誌の1つの目的でもあります。今回不採録となった論文の中にも、再投稿を強く勧めているものもありますので、今後に期待したいと思います。

第1号から第5号までを含めると論文採録状況は65編/133編で、採録率は49%です。また、第1号から第4号までの採録率は、それぞれ、61%、68%、28%、46%でした(研究会に連動しない論文を除く)。第3号は、途中で取り下げる論文が多数発生するという特別な事情で採録率が低調でしたが、第4号、第5号とほぼ平均的な採録率に戻りつつあります。ただし、これらは参考ということで、数字にとらわれず今後とも論文の質を維持していきたいと考えております。

第5号では、計算機システム、データ解析に関する論文として、計算機システムの評価モデル、並列計算機上でのデータ検索手法、データマイニングにおける新手法の提案、HTML解析モデルの拡張、連続メディアの処理に対する数理モデルの適用、確率過程解析に関する新モデルの提案、実際問題に関するモデリング

に関する論文として、マルチエージェントモデルによるVTR規格競争の解析、ファジィ推論に基づく自動車運転のモデリング、遺伝的アルゴリズムによる誤差フィードバック回路の設計、ニューラルネットワークによる学習モデル、ニューラルネットのデータ解析問題への適用、魚群の運動解析モデルの改良、という、これまでと同様に非常に多岐にわたる分野の論文からなっています。どの論文も最新の話題を取り扱い、現実の問題のモデル化、およびその解法を取り扱ったもので、本論文誌と本研究会の特徴である数理モデルに関連が深いものです。また、これらはそれぞれ各分野に大きな貢献をするものと考えております。そして配布部数もこれまでどおり1,000部を予定しております。

TOMも論文誌(Transaction)として定着しつつあり、今年度も年間2号発行という目標で編集を進めております。また、前ページの「論文誌発行にあたって」で紹介されておりますように、Transaction発行以降、毎回の講演数、投稿件数も着実に増加しつつあり、投稿論文の中には最短期間で採録される論文も実際に出てきております。Transactionも確実に学会員、研究者の間で着実に認知されつつあり、現在、既存の情報処理学会論文誌(Journal)との位置付けについて議論がなされております。今後とも、種々のTransaction間で横の連携をとり、またJournalとも協力しつつお互いに発展させていく予定です。今後の発展にご期待いただくとともに、本論文誌をご高覧のうえ、まずご発表と論文ご投稿を、さらに本論文誌に対するご指導、ご意見をお願い致します。また、論文誌の定期購読制度も開始されておりますので、ぜひ、こちらもご利用ください。

† 情報処理学会論文誌「数理モデル化と応用」編集委員長
群馬大学